

専門分野Ⅱ

分野	専門分野Ⅱ		教育内容		成人看護学		単位	6	時間	180	
科目	成人看護学概論(対象の理解)		単位	1	時間	30	進度	1年次前期			
目的	成人期における健康問題を生活状況の特徴や現代社会の状況から捉え、成人期にある対象の健康保持増進を促進する成人看護の役割について理解する										
方法	講義・演習		評価方法		筆記試験・レポート				講師		
学習目標			授業内容								
対象となる大人を多角的に捉え、成人期における健康問題と成人看護の役割を理解する			1.大人の理解 1)大人のイメージ 2)大人の成長・発達 3)大人の家族的・社会的役割 2.大人の健康と生活状況の特徴 1)大人を取り巻く生活状況 2)大人の健康 3)生活習慣病 4)大人の生活と健康をまもりはぐくむシステム 5)健康生活をはぐくむ看護 3.大人の学習の特徴 1)アンドラゴジーモデル 2)行動変容 3)大人と看護師の人間関係 4.大人に生じる危機 1)危機理論 2)危機介入のプロセス 3)自己効力 4)セルフケア理論 5.大人の生活ストレス 1)生活環境に影響を及ぼす因子 2)職場でのストレス 6.健康レベルに対応した看護 1)事例 2)生活習慣病予防指導教育							本校専任教員(17年) (病院で6年、診療所で4年の実務経験有)	
テキスト:系統看護学講座 成人看護学[1] 成人看護総論. 医学書院 参考書:国民衛生の動向											

専門分野Ⅱ

分野	専門分野Ⅱ	教育内容	成人看護学	単位	6	時間	180
科目	成人看護学方法論Ⅰ	単位	1	時間	30	進度	1年次後期
単元名	危機的状況にある人の看護Ⅰ（呼吸・循環）						
目的	急性期の危機的状況にある成人の特徴を理解し、健康問題を統合的に捉えた危機的状況にある対象への看護の展開を学ぶ						
呼吸(14時間)							
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験	講師			
学習目標	授業内容						慢性呼吸器疾患 看護認定看護師 （総合病院で24年の 実務経験有）
呼吸機能障害をもつ対象の健康問題を統合的に捉え、危機的状況にある対象への看護の方法を理解する	1.呼吸器障害症状のアセスメントと看護の視点 呼吸困難、咳嗽・喀痰、吐血・喀血 2.呼吸器検査時の看護 1)気管支鏡検査 2)呼吸機能検査 3)胸腔穿刺 4)肺生検 5)動脈血液ガス分析 3.呼吸器治療における看護 1)肺切除術 2)非侵襲的陽圧換気・侵襲的陽圧換気 3)酸素療法 4)抗アレルギー薬、気管支拡張薬 5)副腎皮質ステロイド 4.呼吸器疾患をもつ対象のアセスメントと看護 1)肺癌 2)肺炎 3)慢性閉塞性肺疾患 4)気管支喘息 テキスト:系統看護学講座 成人看護学[2]呼吸器, 医学書院						
循環(16時間)							
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験	講師			
学習目標	授業内容						集中ケア認定看護師 （病院で13年の実務 経験有）
循環機能障害をもつ対象の健康問題を統合的に捉え、危機的状況にある対象への看護の方法を理解する	1.循環器障害症状のアセスメントと看護の視点 チアノーゼ、胸痛、不整脈、浮腫、ショック 2.循環器検査時の看護 1)心臓カテーテル検査 2)心電図・心エコー検査 3)心血管造影検査 3.循環器治療における看護 1)経皮的冠動脈形成術 弁置換術 2)冠動脈バイパス術 3)大動脈バルーンパンピング 4)ペースメーカー装着 5)植え込み型除細動器 6)血栓溶解療法・血栓除去術 7)強心薬・抗不整脈薬、狭心症治療薬、降圧薬・昇圧薬 4.循環器疾患をもつ対象のアセスメントと看護 1)心不全 2)虚血性心疾患 3)不整脈 4)下肢動脈閉塞症 テキスト:系統看護学講座 成人看護学[3]循環器, 医学書院						
テキスト:系統看護学講座 成人看護学[2]呼吸器, 医学書院 系統看護学講座 成人看護学[3]循環器, 医学書院 参考書:成人看護学 成人看護技術, 南江堂							

専門分野Ⅱ

分野	専門分野Ⅱ		教育内容		成人看護学		単位	6	時間	180	
科目	成人看護学方法論Ⅱ		単位	1	時間	30	進度	2年次前期			
単元名	危機的状況にある人の看護Ⅱ(栄養・脳神経)										
目的	手術により健康状態に急激な変化を受ける成人の特徴を理解し、急性期の危機的状況にある人の健康問題を統合的に捉えた対象への看護の展開を学ぶ										
栄養(14時間)											
方法	講義・演習			評価方法		筆記試験			講師		
学習目標		授業内容									
消化器機能障害をもつ対象の健康問題を統合的に捉え、危機的状況にある対象への看護の方法を理解する		1.消化器障害症状のアセスメントと看護の視点 1)腹痛・腹部膨満、嘔気・嘔吐、下痢、便秘、下血 2)黄疸、肝性脳症、食道静脈瘤、腹水 2.消化管検査時の看護 1)上部消化管内視鏡検査 5)直腸診 2)大腸内視鏡検査 6)消化液検査 3)内視鏡的逆行性胆管膵管造影 7)肝生検 4)上部・下部消化管造影 3.消化管治療における看護 1)咽頭・喉頭摘出術 8)胆道・胆のうドレーン挿入 2)食道切除術 9)急性膵炎の治療 3)胃切除術 10)中心静脈栄養法 4)大腸切除術 11)肝底療法 5)腹腔鏡視下手術 12)肝動脈閉塞術 6)人工肛門造設術 13)肝切除術 7)消化管手術後ドレーン挿入 14)インターフェロン療法 4.消化器疾患をもつ対象のアセスメントと看護 1)肝炎・肝硬変 2)肝癌 テキスト:系統看護学講座 成人看護学[5]消化器, 医学書院								本校専任教員(3年) (総合病院で22年の実務経験有)	
		脳神経(16時間)									
方法	講義・演習			評価方法		筆記試験			講師		
学習目標		授業内容									
脳神経機能障害をもつ対象の健康問題を統合的に捉え、危機的状況にある対象への看護の方法を理解する		1.脳神経障害症状のアセスメントと看護の視点 1)意識障害、頭痛、高次脳機能障害 2)運動(麻痺・失調)・感覚の異常、失語、けいれん 3)嚥下障害、呼吸障害、排尿障害、バイタルサインの変化 2.脳・神経機能検査時の看護 1)髄液検査 2)脳波検査 3)脳血管造影 3.脳・神経治療における看護 1)開頭術 2)穿頭術 3)血管バイパス術 4)血管内治療 5)脳室ドレナージ術中 6)脳室－腹腔シャント術 4.脳・神経障害をもつ対象のアセスメントと看護 1)脳血管障害 2)脳腫瘍 3)脳梗塞 4)小脳疾患 5)頭部外傷 6)脊髄損傷 7)脳死状態 テキスト:系統看護学講座 成人看護学[7]脳・神経, 医学書院								脳卒中リハビリテーション 認定看護師 (病院で18年の実務経験有)	
		テキスト:系統看護学講座 成人看護学[5]消化器, 医学書院 系統看護学講座 成人看護学[7]脳・神経, 医学書院 参考書:成人看護学 成人看護技術, 南江堂									

専門分野Ⅱ

分野	専門分野Ⅱ	教育内容	成人看護学	単位	6	時間	180
科目	成人看護学方法論Ⅲ	単位	1	時間	30	進度	2年次前期・後期
単元名	障害受容期にある人の看護(感覚器・性・生殖・運動)						
目的	健康状態に急激な変化を受け回復的な段階にある成人の特徴を理解し、障害受容期にある人の健康問題を統合的に捉え、障害受容と障害の改善と克服への看護の展開を学ぶ						
感覚器(10時間)							
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験	講師			
学習目標	授業内容						看護師 (総合病院で21年の実務経験有)
感覚器機能障害をもつ対象の健康問題を統合的に捉え、障害受容期にある対象への看護の方法を理解する	1.感覚器障害症状のアセスメントと看護の視点 1)視覚・聴覚・嗅覚・味覚障害の原因と程度、症状 2)皮膚粘膜障害の原因と程度、症状(発疹、びらん、潰瘍)						
	2.感覚器検査時の看護 1)眼底検査 2)鼻腔内視鏡検査 3)オーディオメーター検査 4)スキンテスト						
	3.感覚器治療における看護 1)眼底光凝固療法 2)人工眼内レンズ挿入術 3)網膜はく離治療 4)鼓室形成術 5)鼻腔内手術 6)内服薬・外用薬						
	4.感覚器疾患をもつ対象のアセスメントと看護 1)中途視覚障害 2)突発性難聴 3)メニエール病 4)副鼻腔炎 5)アトピー性皮膚炎						
テキスト:系統看護学講座 成人看護学[12]皮膚[13]眼[14]耳鼻咽喉[15]歯・口腔. 医学書院 参考書:成人看護学 成人看護技術, 南江堂							
性・生殖(10時間)							
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験	講師			
学習目標	授業内容						助産師 (病院で38年の実務経験有)
性・生殖器機能障害をもつ対象の健康問題を統合的に捉え、障害受容期にある対象への看護の方法を理解する	1.性・生殖器障害症状のアセスメントと看護の視点 1)性交障害・不妊・性感染症の原因と程度子宮・卵巣腫瘍の程度の把握 2)乳腺の程度の把握 3)ホルモン欠落症状						
	2.性・生殖器検査時の看護 1)女性生殖器触診、基礎体温測定法、頸管・卵管検査 2)乳房検査						
	3.性・生殖器治療における看護 1)性交障害治療、不妊治療、性感染症治療 2)乳房切除術、乳癌内分泌療法						
	4.性・生殖器疾患をもつ対象のアセスメントと看護 1)不妊症 2)乳がん 3)更年期障害						
テキスト:系統看護学講座 成人看護学[9]女性生殖器. 医学書院							
運動(10時間)							
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験	講師			
学習目標	授業内容						看護師 (病院で25年の実務経験有)
運動機能障害をもつ対象の健康問題を統合的に捉え、障害受容期にある対象への看護の方法を理解する	1.運動機能障害症状のアセスメントと看護の視点 1)姿勢・移動・作業機能障害の原因と程度 2)関節可動域障害・筋力低下の原因と程度 3)疼痛(関節痛、筋肉痛、腰痛、坐骨神経痛)						
	2.運動機能検査時の看護 1)筋生検 2)脊髄造影・椎間板造影 3)膝関節鏡検査・膝関節液検査						
	3.運動器治療における看護 1)ギプス固定 2)人工関節置換術 3)ポジショニングの援助 4)牽引法						
	4.運動器疾患をもつ対象のアセスメントと看護 1)関節リウマチ 2)椎間板ヘルニア 3)重症筋無力症 4)ギラン・バレー症候群 5)筋萎縮性側索硬化症 6)四肢切断後						
テキスト:系統看護学講座 成人看護学[10]運動器. 医学書院							

専門分野Ⅱ

分野	専門分野Ⅱ		教育内容		成人看護学		単位	6	時間	180	
科目	成人看護学方法論Ⅳ		単位	1	時間	30	進度	2年次後期			
単元名	セルフケア期にある人の看護(内部環境・代謝・生体防御機能障害)										
目的	慢性的な経過をたどる健康障害をもつ成人の特徴を理解し、健康問題を統合的に捉え、セルフコントロールを促す看護の方法を学ぶ										
内部環境(内分泌・腎)(10時間)											
方法	講義・演習			評価方法		筆記試験			講師		
学習目標		授業内容									
内部環境調節機能障害をもつ対象の健康問題を統合的に捉え、慢性期にある対象への看護の方法を理解する		1.内分泌機能障害症状のアセスメントと看護の視点 2.内分泌機能検査時の看護 ホルモン負荷試験、ホルモン血中・尿中濃度測定検査 3.内分泌疾患の治療における看護 ホルモン・手術療法 4.内分泌機能障害をもつ対象のアセスメントと看護(バセドウ病) 5.腎機能障害症状のアセスメントと看護の視点 体液量・電解質・調節機能障害の原因と程度、症状 6.腎機能検査時の看護 静脈性尿路造影、腎機能検査(PSP、フィッシュバーグ、濃縮、GFR) 腎生検 7.腎機能治療における看護 食事・運動療法、透析各種、腎移植 8.慢性腎不全・ネフローゼ症候群をもつ対象のアセスメントと看護								看護師 (病院で11年の実務経験有)	
テキスト:系統看護学講座 成人看護学[6]内分泌・代謝 [8]腎・泌尿器. 医学書院											
代謝(10時間)											
方法	講義・演習			評価方法		筆記試験			講師		
学習目標		授業内容									
代謝機能障害をもつ対象の健康問題を統合的に捉え、慢性期にある対象への看護の方法を理解する		1.代謝機能障害症状のアセスメントと看護の視点 1)代謝機能障害(エネルギー、脂質、尿酸)の原因と程度と生命・生活への影響 2)血糖調節機能障害の原因と程度と生命・生活への影響 2.代謝機能検査時の看護 1)中間代謝産物の検査 2)糖負荷試験、血糖自己測定 3.代謝機能障害時の治療における看護 1)インスリン補充療法、インクレチン関連薬による治療、糖尿病治療内服薬 2)食事・運動療法 4.代謝機能障害をもつ対象のアセスメントと看護 1)高尿酸血症、高脂血症、肥満 2)糖尿病								看護師 (総合病院で26年の実務経験有)	
テキスト:系統看護学講座 成人看護学[6]内分泌・代謝. 医学書院											
生体防御機能障害(10時間)											
方法	講義・演習			評価方法		筆記試験			講師		
学習目標		授業内容									
生体防御機能障害をもつ対象の健康問題を統合的に捉え、慢性期にある対象への看護の方法を理解する		1.生体防御機能障害症状のアセスメントと看護の視点 1)アレルギー反応 2)免疫機能障害の原因と程度 3)貧血、発熱、易感染、出血傾向 2.生体機能検査時の看護 1)スキンテスト 2)骨髄穿刺 3.生体防御機能障害時の治療における看護 1)減感作療法、免疫抑制薬、ステロイド療法 2)抗HIV療法 3)化学療法、放射線療法、輸血療法 4.生体防御機能障害をもつ対象のアセスメントと看護 1)HIV感染症 2)自己免疫疾患(膠原病)								本校専任教員(8年) (総合病院で9年の実務経験有)	
テキスト:系統看護学講座 成人看護学[4]血液・造血器 [11]アレルギー 膠原病 感染症. 医学書院 参考書:成人看護学 成人看護技術. 南江堂											

専門分野Ⅱ

分野	専門分野Ⅱ		教育内容		成人看護学		単位	6	時間	180
科目	成人看護学方法論Ⅴ		単位	1	時間	30	進度	2年次後期		
単元名	終末期にある人の看護									
目的	健康障害において死を迎える成人及びその家族の特徴を理解し、対象が人生最期の時を少しでも安楽に過ごすことができるための看護師の役割を学ぶ									
方法	講義・演習			評価方法		筆記試験・レポート			講師	
学習目標			授業内容							
死を迎える対象の特徴を理解する	1.終末期にある状態 1)終末期における健康危機的状況の特徴 2)終末期にある対象と家族の特徴 3)悲嘆のプロセス 2.倫理的課題 1)がん患者の包括的QOL 2)最大の益をめざすこと 3)自己決定の自由の実現(アドバンス・ケアプランニング) (1)アドバンス・ディレクティブ (2)リビング・ウィル					本校専任教員(3年) (総合病院で22年の 実務経験有)				
死を迎える対象と家族に対する看護師の役割を理解する	1.身体的援助 1)健康危機状態にある成人の苦痛と緩和ケアの必要性 2)苦痛の理解 3)苦痛のアセスメント 4)苦痛緩和への援助 5)化学療法時の援助 2.精神的援助 1)心理過程に応じたコミュニケーション 2)悲嘆への援助 3)精神症状のある患者への援助 3.社会的援助 1)社会的苦痛に対する援助 2)社会資源の活用 4.家族への援助 1)グリーフケア 2)遺族への援助 5.看取りの援助 死後の処置									
テキスト:系統看護学講座 別巻 緩和ケア. 医学書院 参考書:系統看護学講座 基礎看護学[4]臨床看護総論. 医学書院										

専門分野Ⅱ

【 成人看護学実習Ⅰ 】 2単位 90時間 3年次

1. 実習の目的

成人期の特性を踏まえ、回復期～慢性期にある対象を理解し、対象に応じた看護の実際を学ぶ
機能障害を持った対象への社会資源の活用と継続看護の必要性を学ぶ

2. 実習目標

- 1) 成人期の発達段階や回復期～慢性期の特性をふまえ、健康障害が及ぼす生活環境の変化とその影響を考え、対象の健康問題を総合的に捉える
- 2) 対象の生活環境と健康問題の関連性を考え、健康の回復と疾病の再燃予防に及ぼす影響をアセスメントする
- 3) 対象の健康問題を抽出し、問題解決に必要な援助を計画し、対象の安全・安楽・セルフケア能力を考慮しながら実施する
- 4) 継続看護の重要性をふまえ、保健・医療・福祉チームにおける看護師の役割を理解し、社会復帰へ向けた看護行為を実施する

3. 実習方法

日程	内 容	記録用紙
前日	事前学習 1週間の計画案記入	事前学習・No.1・2 提出(学内)
初日	・病棟のオリエンテーションを受ける・受け持ち対象の紹介、情報収集開始	共通記録用紙
2日目以降	・情報をもとに、対象の情報をアセスメントし、対象の全体像を関連図に記載する	データベース・情報収集 アセスメント・関連図に記入
	・対象の健康問題を抽出し、病棟の看護計画と照らし合わせながら優先順位を決定する ・問題解決のための援助を計画し、実施可能な援助を確認する	共通記録用紙に看護上の問題・援助計画を立て実施したことを記入
	・対象に指導・教育的な関わりを行なう場合は、対象の同意を得て事前に指導・教育計画を立案し実施する (実施は指導者に確認し実施する)	指導時は指導書計画書作成
	・看護師と共に援助を行い実施したことを評価し、次の計画にむけ必要時修正する *援助の実施は受け持ち以外でも対象の同意を得て、状態に応じた援助を計画し実施する 1週間に1回1事例のケースカンファレンス 以後、行程を繰り返しながら援助を行なう *受け持ち変更時は新たに行程を踏む	記録は日々追加していく
		ケースカンファレンス用紙
6日目	中間評価	評価表提出
登校日	学校にて実習の振り返り 週間計画の立案	
最終日	最終評価	評価表提出

共通記録用紙No.1～No.9 使用（必要時プロセスレコード記載）

最終提出はNo.1～No.9 をそろえて最後に評価表を添付する

4. 実習中の注意事項

- 1) 朝、自分の行動計画を発表し、実施可能な援助か助言を受ける
- 2) 日々の行動計画の助言、印鑑は日々の実習終了時にいただく
- 3) 聴く態度、言葉遣いなど相手を尊重した態度をとり、実習中知りえたことは口外しない
- 4) 決められた服装で実習に臨む
- 5) 時間厳守
- 6) グループでの行動を意識して協力する

5. 提出について

- 1) 指定された実習記録一式をファイルに入れて提出
- 2) 提出は実習担当者へ、次週の登校日に提出する

6. 単位修得の認定

1) 成績の評価

実習評価は、実習目標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、実習課題の提出内容、出席状況について、自己評価・担当教員及び実習指導者からの情報提供も加味し、総合的に評価する。また、各科目の出席時間数が全時間数の3分の2に満たない場合、評価を受けることができない。

2) 成績評価の基準

実習成績は、単位修得の認定に基づき、100点を満点として評価し、60点以上を合格とする。

専門分野Ⅱ

【 成人看護学実習Ⅱ 】 2単位 90時間 3年次

1. 実習の目的

成人期の特性を踏まえ、急性期～回復期にある対象を理解し、対象に応じた看護の実践を学ぶ

2. 実習目標

- 1) 成人期の発達段階や急性期～回復期の特性をふまえ、健康障害が及ぼす生活環境の変化とその影響を考え、対象の健康問題を総合的に捉える
- 2) 対象の生活環境と健康問題の関連性を考え、健康の回復と疾病の予防に及ぼす影響をアセスメントする
- 3) 急性期～回復期の特徴を把握し、手術や急性期における危機的状態での苦痛や生命危機、精神・社会的側面への影響を考え、対象に応じた健康行動を促進する援助を実施する
- 4) 危機的状態にある対象の家族・医療スタッフの位置づけや役割を理解する

3. 実習方法

日程	内 容	記録用紙
前日	事前学習 1週間の計画案記入	事前学習・No.1・2 提出（学内）
初日	・病棟のオリエンテーションを受ける・受け持ち対象の紹介、情報収集開始	共通記録用紙のデータベース・情報収集・アセスメント・関連図に記入 共通記録用紙に看護上の問題・援助計画を立て実施したことを記入 指導時は指導書計画書作成 記録は日々追加していく ケースカンファレンス用紙
4日目	・情報をもとに、対象の情報をアセスメントし、対象の全体像を関連図に記載する ・対象の健康問題を抽出し、病棟の看護計画と照らし合わせながら優先順位を決定する ・問題解決のための援助を計画し、実施可能な援助を確認する ・対象に指導・教育的な関わりを行なう場合は、対象の同意を得て事前に指導・教育計画を立案し実施する（実施は指導者に確認し実施する） ・看護師と共に援助を行い実施したことを評価し、次の計画にむけ必要時修正する *援助の実施は受け持ち以外でも対象の同意を得て、状態に応じた援助を計画し実施する 1週間に1回1事例のケースカンファレンス 以後、行程を繰り返しながら援助を行なう *受け持ち変更時は新たに行程を踏む	
6日目	中間評価	
登校日	学校にて実習の振り返り 週間計画の立案	
最終日	最終評	

共通記録用紙No.1～No.9 使用（必要時プロセスレコード記載）

最終提出はNo.1～No.9 をそろえて最後に評価表を添付する

☆受け持ちの手術場面見学

- ・手術に伴う検査の目的・方法を理解し適切に検査が行なわれるように援助する
- ・術後に起こりやすい合併症の予測
- ・手術を受ける対象（家族も含む）の心理的状況の理解し（どのように説明されているか）、対象が手術を受容できるように援助する
- ・術前処置の必要性
- ・手術室内での対象の状況を理解する
- ・手術見学を通し、対象に必要な術後の看護を理解する

4. 実習中の注意事項

- 1) 朝、自分の行動計画を発表し、実施可能な援助か助言を受ける
- 2) 日々の行動計画の助言、印鑑は日々の実習終了時にいただく
- 3) 聴く態度、言葉遣いなど相手を尊重した態度をとり、実習中知りえたことは口外しない
- 4) 決められた服装で実習に臨む
- 5) 時間厳守
- 6) グループでの行動を意識して協力する

5. 提出について

- 1) 指定された実習記録一式をファイルに入れて提出
- 2) 提出は実習担当者へ、次週の登校日に提出する

6. 単位修得の認定

1) 成績の評価

実習評価は、実習目標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、実習課題の提出内容、出席状況について、自己評価・担当教員及び実習指導者からの情報提供も加味し、総合的に評価する。また、各科目の出席時間数が全時間数の3分の2に満たない場合、評価を受けることができない。

2) 成績評価の基準

実習成績は、単位修得の認定に基づき、100点を満点として評価し、60点以上を合格とする。

専門分野Ⅱ

【 成人看護学実習Ⅲ 】 2単位 90時間 3年次

1. 実習の目的

成人期の特性を踏まえ、慢性期・終末期にある対象を理解し、対象に応じた看護の実践を学ぶ。

2. 実習目標

- 1) 成人期の発達段階や慢性期・終末期の特性をふまえ、健康障害が及ぼす生活環境の変化とその影響を考え、対象の健康問題を総合的に捉える
- 2) 対象の生活環境と健康問題の関連性を考え、健康の維持と症状の再燃に及ぼす影響をアセスメントする
- 3) 慢性期・終末期の特徴を把握し、慢性的な健康状態により自己管理が必要な対象へのセルフケアを促す指導方法及び終末期にある対象とその家族がよりよい生活を送るための援助を実施する
- 4) 終末期にある対象の個別性を尊重し、全人的な関わりを学び、家族への援助ができる

3. 実習方法

日程	内 容	記録用紙
前日	事前学習 1週間の計画案記入	事前学習・No1・2 提出(学内)
初日	・病棟のオリエンテーションを受ける・受け持ち対象の紹介、情報収集開始	共通記録用紙
2日目以降	・情報をもとに、対象の情報をアセスメントし、対象の全体像を関連図に記載する ・対象の健康問題を抽出し、病棟の看護計画と照らし合わせながら優先順位を決定する ・問題解決のための援助を計画し、実施可能な援助を確認する ・対象に指導・教育的な関わりを行なう場合は、対象の同意を得て事前に指導・教育計画を立案し実施する (実施は指導者に確認し実施する) ・看護師と共に援助を行い実施したことを評価し、次の計画にむけ必要時修正する *援助の実施は受け持ち以外でも対象の同意を得て、状態に応じた援助を計画し実施する 1週間に1回1事例のケースカンファレンス 以後、行程を繰り返しながら援助を行なう *受け持ち変更時は新たに行程を踏む	データベース・情報収集 アセスメント・関連図に記入
		共通記録用紙に看護上の問題・援助計画を立て実施したことを記入
		指導時は指導書計画書作成
		記録は日々追加していく
		ケースカンファレンス用紙
6日目	中間評価	評価表提出
登校日	学校にて実習の振り返り 週間計画の立案	
最終日	最終評価	評価表提出

共通記録用紙No.1～No.9 使用 (必要時プロセスレコード記載)

最終提出はNo.1～No.9 をそろえて最後に評価表を添付する

4. 実習中の注意事項

- 1) 朝、自分の行動計画を発表し、実施可能な援助か助言を受ける
- 2) 日々の行動計画の助言、印鑑は日々の実習終了時にいただく
- 3) 聴く態度、言葉遣いなど相手を尊重した態度をとり、実習中知りえたことは口外しない
- 4) 決められた服装で実習に臨む
- 5) 時間厳守
- 6) グループでの行動を意識して協力する

5. 提出について

- 1) 指定された実習記録一式をファイルに入れて提出
- 2) 提出は実習担当者へ、次週の登校日に提出する

6. 単位修得の認定

1) 成績の評価

実習評価は、実習目標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、実習課題の提出内容、出席状況について、自己評価・担当教員及び実習指導者からの情報提供も加味し、総合的に評価する。また、各科目の出席時間数が全時間数の3分の2に満たない場合、評価を受けることができない。

2) 成績評価の基準

実習成績は、単位修得の認定に基づき、100点を満点として評価し、60点以上を合格とする。

専門分野Ⅱ

分野	専門分野Ⅱ		教育内容		老年看護学		単位	4	時間	105	
科目	老年看護学概論(対象の理解)		単位	1	時間	30	進度	1年次前期			
目的	高齢社会における老年看護の概念と意義を理解し、ライフサイクルの中での老年期にある対象の身体的・精神的・社会的機能の特徴およびその生活を理解する										
方法	講義		評価方法		筆記試験・レポート				講師		
学習目標			授業内容								
老年期を理解し、 老年看護の意義を 理解する			1.ライフサイクルにおける老年期の理解 1)「老い」とは 2)ライフステージとしての老年期 3)加齢と老化 2.老年看護の概念・役割・機能 1)高齢社会の中での看護の役割 2)老年看護の成立過程 3)老年看護の目的・原則・倫理課題 3.人口学的指標、健康指標からの老年期の理解 1)高齢者人口の推移 2)疾病構造、有病率、有訴率、受療行動など 4.生活の視点からの老年期の理解 1)生活の構造・リズム・習慣 2)役割・社会活動 3)家族・世帯構成 4)就労・経済状態							本校専任教員(8 年) (総合病院で9年の 実務経験有)	
			5.高齢者の身体的・精神的・社会的機能の特徴 1)高齢者の個体差と多様性 2)老年期の発達と成熟 3)老年期の発達課題 6.高齢者の生活と環境 1)加齢に伴う生活の変化 2)経済的・社会的な生活 3)高齢者と家族の関係 4)楽しみ・生きがい 5)高齢者の自立とセルフケア 6)高齢者を支える人々 7)看護・介護								
老年期にある対象 の身体的・精神的・ 社会的機能の特徴 と生活者としての高 齢者を理解する			7.高齢者にとっての健康 老年期の健康のとらえ方 8. 高齢者と社会制度 1)高齢者ケアに関わる多職種の看護の役割 2)高齢者と家族								
老年期を生きる 人々の健康と高齢 社会における保健・ 医療・福祉制度に ついて理解する			9.高齢者のQOL 1)高齢者の人権・権利擁護 2)自立支援とエンパワメント 10.老年看護の原理・特性 1)安全な生活への看護 2)健康の保持増進と予防活動 3)疾病の回復への看護 4)日常生活能力の維持・改善 5)終末期の看護 6)継続看護・在宅生活への看護 7)家族との協働・家族看護 11.倫理課題 1)自己決定 2) 高齢者差別 3)身体拘束・虐待								
老年看護の基本的 な考え方を理解す る											
テキスト:系統看護学講座 老年看護学, 医学書院 参考書:国民衛生の動向											

専門分野Ⅱ

分野	専門分野Ⅱ		教育内容		老年看護学		単位	4	時間	105
科目	老年看護学方法論Ⅰ		単位	1	時間	30	進度	2年次前期		
单元名	健康障害・疾病をもつ高齢者の看護									
目的	健康障害をもつ高齢者を身体・精神・社会的特徴をふまえて捉え、対象にとっての健康生活を支える看護を理解し、その方法を学ぶ									
方法	講義		評価方法		筆記試験・レポート			講師		
学習目標	授業内容									
老年看護の原理・原則及び老年看護の基本的技術を理解する	1.高齢者におきやすい症候と看護 2.高齢者とのコミュニケーションの方法 3.高齢者の障害受容への看護 4.老年者のフィジカルアセスメント 5. 高齢者におきやすい症候とその看護									大学准教授 看護師 (総合病院で9年、訪問看護ステーションで1年の実務経験有)
高齢者に特徴的な症候、疾患を理解し、健康障害をもつ老年者の看護を理解する	1)発熱 2)疼痛 3)ショック 4)意識障害 5)睡眠障害 6)呼吸困難 7)摂食・嚥下障害 8)排泄障害・失禁 9)転倒・骨折 10)寝たきり 11)心理の理解 6. 老年期に特徴的な疾患と看護 1)認知症 2)脳梗塞・パーキンソン病 3)うつ病 4)心不全 5)誤嚥性肺炎 6)大腿頸部骨折、骨粗しょう症 7)視覚・聴覚の障害 8)MRSA									
健康障害を高齢者の生活機能の視点から捉え、生活を支える看護を理解する	7.視覚・聴覚の障害 1)視覚・聴覚障害が生活に及ぼす影響と評価 2)住環境や生活環境の整備 8.コミュニケーションの障害 コミュニケーション障害の原因の把握・評価 9.嚥下機能の低下、摂食障害 1)嚥下障害の原因・観察・評価 2)誤嚥の予防、嚥下機能を高める看護 10.排泄コントロールの障害 1)排泄コントロール障害の原因の把握、生活への影響 2)排泄コントロール障害への看護 11.日常生活動作(ADL)の障害 1)日常生活動作(ADL)の評価と看護 2)残存機能を引き出す援助技術 12.長期臥床・廃用症候群 1)長期臥床状態の原因の把握、残存機能の評価 2)合併症の予防 3)褥創予防と褥創ケア 13.認知症・精神障害 1)認知症の種類と評価の方法 2)認知症による日常生活機能の障害と看護 14.骨粗鬆症 1)骨粗鬆症の程度と生活へ及ぼす影響の評価 2)転倒・骨折の予防									
治療を受ける高齢者の看護を理解する	15.薬物療法 16.検査・手術 17.受療形態に応じた看護									
高齢者の終末期の看護について理解する	18.終末期にある高齢者の看護 1)高齢者の死についてのとらえ方 2)死の準備教育 3)臨死期の看護・死の徴候について 4)家族への看護・グリーフケア									
テキスト:系統看護学講座 老年看護学, 医学書院 系統看護学講座 老年看護 病態・疾病論, 医学書院 参考書:適宜関係図書紹介 資料配布										

専門分野Ⅱ

分野	専門分野Ⅱ		教育内容		老年看護学		単位	4	時間	105	
科目	老年看護学方法論Ⅱ		単位	1	時間	30	進度	2年次前期			
単元名	保健・医療・福祉制度活用理解										
目的	高齢者の生活において保健・医療・福祉制度が重要な意味をもつことを理解し、制度の内容や変化が高齢者や老年看護に与える影響及び看護師の役割について理解する										
方法	講義		評価方法		筆記試験・レポート				講師		
学習目標		授業内容									
高齢社会を支える制度やソーシャルサポートシステムについて理解する		1.介護保険制度の理解 1)創設・改正の経緯 2)介護保険制度の理念・特徴 3)介護保険制度のしくみ 4)ケアマネジメント 5)施設サービス 6)居宅サービス 7)チームケア・チーム連携 2.ソーシャルサポートシステムの理解 3.成年後見制度の理解 1)基本理念 2)種類 3)適応 4)利用方法								【8/30時間】 社会福祉士 (地域包括支援センター、介護施設で25年の実務経験有) 【12/30時間】 看護師 (総合病院で18年の実務経験有) 【10/30時間】 看護師 (総合病院で17年の実務経験有)	
高齢者の保健・医療・福祉施設における看護について理解する		1.各施設の特徴と看護 1)療養型病床 2)老人保健施設 3)特別養護老人ホーム 4)グループホーム									
在宅高齢者の看護について理解する		2.高齢者の在宅生活を支える看護サービス 1)訪問看護の目的・役割と機能 2)訪問看護援助 3)対象の生活環境のアセスメント調整 4)多職種連携とチームアプローチ 5)健康増進、保健予防活動									
高齢者を介護する家族への看護について理解する		3.介護をする家族への理解と看護者としての援助 1)介護者の健康・介護力の評価 2)家族の生活の理解と家族への援助の視点 3)家族介護の課題・介護問題の社会的側面									
テキスト:系統看護学講座 老年看護学. 医学書院 参考書:適宜関係図書紹介 資料配布											

専門分野Ⅱ

分野	専門分野Ⅱ		教育内容		老年看護学		単位	4	時間	105
科目	老年看護学方法論Ⅲ		単位	1	時間	15	進度	2年次前期		
单元名	看護展開									
目的	老年期に発症頻度の高い事例を用い、高齢者を身体的・精神的・社会的側面から捉え、対象の健康レベルに応じた看護を多様な生活・療養場面で展開する方法を学ぶ									
方法	講義		評価方法		筆記試験・レポート					講師
学習目標			授業内容							
老年期の特徴をふまえ、健康障害が対象の生活に及ぼす影響を理解する			1.対象の特徴を捉えるアセスメントの視点 1)健康障害のアセスメント 2)健康問題を抱える対象のアセスメント (1)身体的側面 (2)精神的側面 (3)社会的側面 3)対象の生活環境のアセスメント							
対象の健康レベルに応じた看護の展開を理解する			2.事例の展開 老年期の特性、発達段階の理解と看護							本校専任教員(8年) (総合病院で9年の実務経験有)
テキスト:系統看護学講座 老年看護学, 医学書院 参考書:適宜関係図書紹介 資料配布										

【 老年看護学実習Ⅰ 】 1単位 45時間 2年次

1. 実習目的

高齢者の生活史を踏まえ、コミュニケーションを通して、健康問題や障害を抱えながらも地域で生活している対象を理解する

2. 実習目標

- 1) 高齢者の身体的・心理的・社会的特徴を把握し、対象にあったコミュニケーションをとる
- 2) 高齢者の発達段階を理解し、加齢による機能低下や障害を持ちつつ自立を目指す対象の理解を深める
- 3) 施設における高齢者の安全に配慮された生活環境を理解する
- 4) 高齢者と家族をとりまく保健・福祉・医療機関を知り、施設における多職種間の連携の重要性を理解する
- 5) 高齢者の尊厳及び権利を尊重した態度を身につける

3. 実習場所

介護老人保健施設・介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）

4. 実習方法

	内 容		記録用紙
高齢者スポーツ大会	補助員として大会に参加し、尊敬の気持ちを忘れないで高齢者とコミュニケーションをとる		No.4
施設実習	1日目	オリエンテーション（施設の概要）、施設見学 受け持ち対象となる利用者の情報収集 職員とともに日常生活援助見学・実施	No.1・No.2・No.3
	2日目	行動目標を明確にして、実習に臨む 職員とともに日常生活援助見学・実施	No.2・No.3
	3日目	行動目標を明確にして、実習に臨む 職員とともに日常生活援助見学・実施	No.2・No.3
	4日目	行動計画を明確にして、実習に臨む カンファレンス・反省会	No.2・No.3
記録用紙	No.1 老年看護学実習Ⅰ 実習課題用紙 No.2 行動計画書（共通記録用紙） No.3-① No.3-② 老年看護学実習Ⅰ 記録用紙 No.4 高齢者スポーツ大会レポート（高齢者スポーツ大会終了後） No.5 老年看護学実習Ⅰ 実習振り返り用紙（施設実習終了後） ※評価表		

5. 実習中の注意事項

- 1) 実習中知り得たすべての情報について口外しない（守秘義務）
- 2) 生活援助は、必ず職員とともに見学・実施する
- 3) 自己判断で行動することなく、指導者・教員への報告・連絡・相談を怠らない
- 4) 自身の心身の健康管理に十分配慮する

6. 記録物について

- 1) 事前学習は指定期日までに提出する
- 2) 終了後、実習記録一式をファイルに入れ、指定期日まで担当教員に提出する

専門分野Ⅱ

【 老年看護学実習Ⅱ 】 3単位 135時間 3年次

1. 実習目的

健康障害をもつ老年期の対象を多面的に捉え、疾患や障害をもちながらもその人らしい生活を営むために必要な援助ができる。そのうえで、対象を生活機能の観点から捉えた看護展開の方法を学ぶ

2. 実習目標

- 1) 老年期の発達段階をふまえ、健康障害をもつ対象の健康問題を身体的・精神的・社会的側面から捉える
- 2) 健康障害と生活背景の関連性を考え、健康障害が対象及び家族の生活に及ぼす影響と発達段階をふまえた健康の回復について理解する
- 3) 対象の健康問題から看護計画を立案し、セルフケア能力を生かした看護援助の方法を理解する
- 4) 継続看護の視点を持ち、対象の生活を支える多職種連携と看護師の役割を理解する
- 5) 高齢者の人権を尊重した看護者の態度を学ぶ

3. 実習方法

週／曜日	内 容	記録用紙
事前学習	実習の課題を明確にする 事前学習	No. 1 事前学習No.10
1 週目	1 実習目的・目標にあわせた自己の計画を立てる 2 オリエンテーション、受け持ち対象紹介、情報収集 3 受け持ち対象及び家族、同室者とのコミュニケーションを図る 4 得られた情報をアセスメントする 5 関連図を書き、対象の全体像を捉える * 情報の変化に応じてアセスメントをし、追加・修正をする 6 初期の看護問題を挙げる	No.2・No.3・No.4・No.5
2 週目	1 看護計画の立案 * 対象の全体像を捉え、看護過程にそって看護計画を立案する * 情報の変化に応じてアセスメントをし、追加・修正をする 2 看護師と共に計画の実践 ⇄ 評価・修正を繰り返す 3 ケースカンファレンス * 中間評価	No.2・No.3・No.4・No.5・No.6 ケースカンファレンス用紙 評価表
3・4 週目	1 実践 ⇄ 評価 ⇄ 修正 を繰り返す。 2 ケースカンファレンス 自己の看護計画、実践、評価の過程をふりかえり、指導者や他の学生の助言を受けて、修正した計画を実践する * 最終評価	No.2・No.3・No.4・No.5・No.6 カンファレンス用紙 評価表
記録用紙	No.1 実習課題用紙 No.2 行動計画書 No.3 情報の分類・整理と分析・解釈 データベース No.4 関連図 No.5 看護上の問題No. No.6 受け持ち患者看護計画 No.9 実習振り返り用紙	

4. 実習中の注意事項

- 1) 聴く態度、言葉遣いなど相手を尊重した態度をとり、守秘義務を厳守する
- 2) 服装、時間など規則を守る
- 3) 自己の体調管理に留意する
- 4) 各自が自己の責任を果たし、グループ間で協力しあうこと

5. 提出物について

- 1) 登校日に、実習担当教員へ提出し、指導を受ける
- 2) 指定された実習記録一式をファイルに入れ、指定期日までに担当教員まで提出すること

6. 単位修得の認定

- 1) 成績の評価
実習評価は、実習目標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、実習課題の提出内容、出席状況について、自己評価・担当教員及び実習指導者からの情報提供も加味し、総合的に評価する。また、各科目の出席時間数が全時間数の3分の2に満たない場合、評価を受けることができない。
- 2) 成績評価の基準
実習成績は、単位修得の認定に基づき、100点を満点として評価し、60点以上を合格とする。

専門分野Ⅱ

分野	専門分野Ⅱ		教育内容		小児看護学		単位	4	時間	105
科目	小児看護学概論(子どもの理解)		単位	1	時間	30	進度	1年次後期		
目的	小児看護の対象である子どもの特徴について理解し、看護の役割について学ぶ。また、子どもの健康の保持・増進、健康の回復を促すためには、子どもと家族がおかれている社会環境を様々な側面から学ぶ									
方法	講義		評価方法		筆記試験・レポート			講師		
学習目標			授業内容							
小児看護の変遷を学び小児看護の現状と今後の課題を理解する			1.小児看護の特徴と理念 1)小児看護の目ざすところ (1)小児看護の対象 (2)小児看護の目標と役割 2)小児と家族の諸統計 (1)わが国の人口構造 (3)小児の死亡 (2)出生と家族 3)小児看護の変遷 4)小児看護における倫理 5)小児看護の課題 (1)疾病構造の変化と小児看護 (2)社会の変化と小児看護 (3)小児看護の専門分化							
			2.小児と家族を取り巻く社会 1)子どもにとっての家族とは 6)予防接種 2)現代家族の特徴 7)学校保健安全 3)児童福祉 8)特別支援教育 4)母子保健 9)臓器移植法 5)医療費の支援							
小児看護の機能と役割を理解する			3.小児の成長・発達 1)成長・発達とは 2)成長・発達の進み方 3)成長・発達に影響する因子 4)成長の評価 5)発達の評価 4.小児の栄養 1)小児にとっての栄養の意義 2)食事摂取基準 3)発達段階別の小児の栄養の特徴 5.新生児・乳児 1)新生児(メインは母性で行う) 2)乳児 6.幼児・学童 1)幼児 2)学童 7.思春期・青年期の小児 思春期・青年期 8.家族の特徴とアセスメント 1)子どもにとっての家族とは 2)家族アセスメント							
子どもの成長発達を知り、成長発達段階に必要な健康増進を促す看護を理解する										
テキスト:系統看護講座 小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論. 医学書院 系統看護講座 小児看護学[2]小児臨床看護各論. 医学書院 参考書:国民衛生の動向										

専門分野Ⅱ

分野	専門分野Ⅱ		教育内容		小児看護学		単位	4	時間	105
科目	小児看護学方法論Ⅰ(健康障害)		単位	1	時間	30	進度	2年次前期		
目的 健康障害のある子どもを理解し、子どもと家族に必要な看護を実践するための基礎的知識を学ぶ										
方法	講義		評価方法		筆記試験・レポート			講師		
学習目標			授業内容							
小児特有の疾患について知り、看護の基礎的知識を理解する			1.染色体異常・胎内環境により発症する先天異常と看護 1)出生前・後 成長発達過程 2)染色体異常 2.新生児 新生児の疾患・低出生体重児 3.代謝性疾患 1)先天代謝異常症 2)1型2型糖尿病 4.内分泌疾患 下垂体・甲状腺・副腎・性腺異常 5.免疫・アレルギー性疾患、膠原病 1)アレルギーの分類と発生機序 2)食物アレルギー・気管支喘息 3)免疫不全症・リウマチ性疾患 6.感染症 1)微生物総論 2)ウイルス・細菌・真菌・その他の感染症 7.呼吸器疾患 1)上気道の疾患 2)気管支・肺・胸膜疾患 8.循環器疾患 1)先天性心疾患 2)川崎病 突然死 9.消化器疾患 形態異常・その他の消化器疾患 10.血液・造血器疾患 11.悪性新生物 造血器腫瘍・脳腫瘍・その他の固形腫瘍 12.腎・泌尿器および生殖器疾患 1)泌尿・生殖器の奇形 2)腎糸球体疾患 13.神経疾患 1)神経系の奇形 2)脳性麻痺・水頭症その他の疾患 14.運動器疾患 先天性股関節脱臼・内反足・斜頸・骨折 15.感覚器疾患 1)皮膚疾患 2)眼疾患 3)耳鼻咽喉疾患 16.精神疾患 1)神経症性障害と発達障害 2)注意欠陥／多動性障害の子ども					【2/30時間】 医師 (総合病院で11年、診療所で25年の実務経験有) 【14/30時間】 医師 (総合病院で42年の実務経験有) 【8/30時間】 医師 (総合病院で39年の実務経験有) 【6/30時間】 医師 (総合病院で15年、診療所で26年の実務経験有)		
テキスト:系統看護講座 小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論, 医学書院 系統看護講座 小児看護学[2]小児臨床看護各論, 医学書院 参考書:適宜関係図書紹介 資料配布										

専門分野Ⅱ

分野	専門分野Ⅱ		教育内容		小児看護学		単位	4	時間	105
科目	小児看護学方法論Ⅱ(小児看護)		単位	1	時間	30	進度	2年次後期		
目的 健康問題のある子どもと家族への看護について学ぶ										
方法	講義		評価方法		筆記試験・レポート			講師		
学習目標			授業内容							
健康問題をもつ子どもと家族の特徴や、疾病の経過時の看護について理解する			1.病気・障がいをもつ小児と家族の看護					【14/30時間】 保健師 (総合病院で15年の実務経験有)		
			1)病気・障がいがある小児と家族に与える影響							
			2)小児の健康問題と看護							
			2.小児における疾病の経過と看護							
小児看護における外来・入院・在宅の特徴を知り、子どもと家族の看護について理解する			1)慢性期にある子どもと家族の看護							
			2)急性期にある子どもと家族の看護							
			3)周手術期の子どもと家族の看護							
			4)終末期の子どもと家族の看護							
さまざまな症状を示す子どもと家族の看護について理解する			3.小児の状況(環境)に特徴づけられる看護							
			1)入院中の小児と家族の看護							
			2)外来における小児と家族の看護							
			3)在宅療養中の小児と家族の看護							
			4)災害時の小児と家族の看護							
			4.症状を示す小児の看護							
			1)不きげん							
			2)啼泣							
			3)痛み							
			4)呼吸困難・鼻閉							
			5)チアノーゼ							
			6)ショック							
			7)発熱							
8)嘔吐										
9)下痢										
10)便秘										
11)脱水										
12)浮腫										
13)出血										
14)貧血										
15)けいれん										
16)意識障害										
17)発疹										
18)黄疸										
方法	講義		評価方法		筆記試験・レポート			講師		
学習目標			授業内容							
障がいのある子どもと家族の特徴や、看護について理解する			5.障がいのある子どもと家族の看護					【16/30時間】 看護師 (総合病院で25年の実務経験有)		
			1)障がいのとらえ方							
			2)障がいのある小児と家族の特徴							
現代の子どもと家族の抱えている問題について理解する			3)障がいのある子どもと家族の社会的支援							
			6.子どもの虐待と看護							
			1)子どもの虐待の現状と対策の経緯							
			2)子ども虐待とは							
			3)リスク要因と発生予防・早期発見							
子どもの健康上の問題を解決するため看護過程を理解する			4)子どもの虐待に特徴的に見られる状況							
			5)求められるケア							
			7.事例による看護過程の展開							
			1)気管支喘息の小児の看護							
			2)肺炎の小児の看護							
3)ネフローゼ症候群の小児の看護										
4)白血病の小児の看護										
テキスト:系統看護講座 小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論. 医学書院 系統看護講座 小児看護学[2]小児臨床看護各論. 医学書院 参考書:適宜関係図書紹介 資料配布										

専門分野Ⅱ

分野	専門分野Ⅱ		教育内容	小児看護学		単位	4	時間	105
科目	小児看護学方法論Ⅲ (小児看護技術)		単位	1	時間	15	進度	2年次後期	
目的 小児看護に必要な看護技術を学ぶ									
方法	講義		評価方法	筆記試験・レポート			講師		
学習目標		授業内容							
小児看護特有の基本技術を身につけ、子どもと家族への看護を理解する		1.子どものアセスメント 1)アセスメントに必要な技術 (1)コミュニケーション (2)バイタルサイン (3)身体測定 2)身体的アセスメント (1)一般状態 (2)眼 (3)耳 (4)顔面・鼻・口腔 (5)呼吸 (6)心臓・血管系 (7)腹部 (8)筋・骨格系 (9)神経系 (10)生殖器 (11)リンパ系 (12)皮膚・爪・体毛 2.事故・外傷 1)おもな事故・外傷と子ども (1)不慮の事故総論 (2)頭部外傷 (3)誤飲・誤嚥 (4)溺水 (5)熱傷 (6)熱中症 3.検査・処置を受ける小児の看護 1)検査・処置総論 プレパレーションの実際 2)薬物動態と薬用量の決定 3)治療・処置各論 (1)与薬 (2)輸液管理 (3)抑制 (4)検体採取 (5)電法 (6)清潔 (7)経管栄養 (8)排泄 (9)呼吸症状の緩和					保健師 (総合病院で15年の 実務経験有)		
テキスト: 系統看護講座 小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論. 医学書院 系統看護講座 小児看護学[2]小児臨床看護各論. 医学書院 参考書: 適宜関係図書紹介 資料配布									

専門分野Ⅱ

【 小児看護学実習Ⅰ 】 1単位 45時間 2年次後期

1. 実習の目的
健康な子ども及び障がい児の成長発達段階を理解し、成長発達を促すための関わり方について学ぶ
2. 実習目標
 - 1) 健康な子どもの成長・発達の特徴を理解する
 - 2) 成長発達段階における個別性を把握し、個々に応じた日常生活行動を理解する
 - 3) 健康維持、増進、予防対策、安全対策について理解する
 - 4) 障がい児を取り巻く環境について理解することができる
 - 5) 障がい児の個々の違いを把握し、関わり方を学ぶ
 - 6) 子どもの権利を意識し、子どもの人権を尊重した態度を養う
3. 実習方法

実習場所	日	内 容	記録用紙
校 内		学内オリエンテーション 事前学習	共通記録用紙No.1 提出
保育園（所）	1	オリエンテーション 各教室実習	共通記録用紙No.1 保育所実習記録No.1・No.2
	2	各教室実習	保育所実習記録No.1・No.2
	3	各教室実習	保育所実習記録No.1・No.2
	4	各教室実習 カンファレンス	保育所実習記録No.1・No.2 共通記録用紙No.9
小学校	1	オリエンテーション 各教室実習	共通記録用紙No.1・No.9 小学校実習記録No.1・No.2
支援学校	1	オリエンテーション 各教室実習	共通記録用紙No.1・No.9 支援学校記録No.1
校 内		実習まとめ・反省会	発表会後反省会記録提出

4. 用紙の説明
 - 1) 共通記録用紙No.1 実習課題用紙：実習初日に各施設長に提出する
 - 2) 保育所記録No.1：実習中に記入
No.2：毎日1枚記入し、担当保育士にコメントをいただく
 - 3) 小学校記録No.1・No.2：ともに実習中に記入し、クラス担当教諭からコメントをいただく
 - 4) 支援学校記録No.1：実習中または実習終了後記入する
 - 5) 共通記録用紙No.9 振り返り用紙：後日記録物を振り返り記入する
 - 6) 評価表（学生用）：記録と共に提出
 - 7) カンファレンス用紙：実習終了後担当教員に提出

5. 実習中の注意事項
 - 1) 子どもと家族のプライバシーを保持すること
個人情報保護に対しての個人の誓約書を記入する
 - 2) 自己の感染症対策を万全にすること
 - 3) 事故防止に心がけること
 - 4) 実習にふさわしい服装、身だしなみ、言葉遣いに気をつけること
 - 5) 実習グループとして協力すること

6. 提出について
 - 1) 事前学習および実習課題は、実習2週間前までに担当教員へ提出
 - 2) カンファレンス記録・実習記録は、次週の登校日に担当教員へ提出
 - 3) 校内実習反省会はグループごとに所定用紙の項目ごとにまとめ、発表し担当教員へ提出

7. 単位修得の認定
 - 1) 成績の評価
実習評価は、実習目標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、実習課題の提出内容、出席状況について、自己評価・担当教員及び実習指導者からの情報提供も加味し、総合的に評価する。また、各科目の出席時間数が全時間数の3分の2に満たない場合、評価を受けることができない。
 - 2) 成績評価の基準
実習成績は、単位修得の認定に基づき、100点を満点として評価し、60点以上を合格とする。

専門分野Ⅱ

【 小児看護学実習Ⅱ 】 1単位 45時間 3年次

1. 実習の目的

子どもとその家族を理解し、成長・発達段階及び健康問題に応じた看護の方法について学ぶ

2. 実習目標

- 1) 成長発達段階及び健康問題に応じた看護の必要性を理解する
- 2) 健康問題が対象とその家族に及ぼす影響を理解する
- 3) 小児看護に必要な基本的技術の方法を理解する
- 4) 継続看護の必要性を認識し、看護者の役割を理解する
- 5) 看護専門職としてふさわしい態度を身につける

3. 実習方法

週	日	内 容	記録用紙
		学内オリエンテーション 事前学習	事前学習
1 週目	1	オリエンテーション 患者紹介 病棟実習 カンファレンス	事前学習 共通用紙No.1・No.2 提出（指導者へ）
	2	病棟実習 カンファレンス	共通用紙No.2 小児記録No.3・No.4
	3	病棟実習 カンファレンス 外来実習	共通用紙No.2・No.7・No.8 小児記録No.3・No.4・No.5・No.6
2 週目	4	病棟実習 中間評価（全員でカンファレンス）	共通用紙No.2・No.7・No.8 小児記録No.3・No.4・No.5・No.6
	5	病棟実習 カンファレンス	共通用紙No.1・No.2・No.7・No.8 小児記録No.3・No.4・No.5・No.6
	6	病棟実習 最終評価（個別）・カンファレンス	共通用紙No.1・No.2・No.7・No.8・No.9 小児記録No.3・No.4・No.5・No.6

病棟実習は受け持ちを決めて看護展開をする

※外来実習は病棟実習中、半日以上実施（実習初日に外来に挨拶をし、実習日の確認をする）

4. 用紙の説明

- No.1 共通実習課題用紙（病棟・外来で1枚）
- No.2 共通実習計画用紙（毎日書き提出）
- No.3 小児の情報収集・アセスメント用紙
- No.4 小児の経過表・看護記録用紙
- No.5 小児用プレパレーション計画実施用紙

5. 実習中の注意事項

- 1) 小児と家族のプライバシーを保持すること
個人情報保護に対しての個人の誓約書を記入する
- 2) 自己の感染症対策、健康管理を万全にすること
- 3) 事故防止に心がけること
所在を明らかにして行動する
報告・連絡・相談をすること
- 4) 実習にふさわしい服装、身だしなみ、言葉遣いをする
胸のポケットにはネームのみ
アップリケは腰のポケットに付ける
外来実習では小児用エプロンをつける（学校から借りる）
- 5) 実習グループとして協力すること

6. 提出について

- 1) 事前学習記録は2週間前までに担当教員に提出
共通記録用紙No.1、No.2（初日のみの計画）は1週間前までに担当教員に提出
- 2) 指定された実習記録一式は、実習終了後1週間以内に担当教員へ提出

7. 単位修得の認定

1) 成績の評価

実習評価は、実習目標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、実習課題の提出内容、出席状況について、自己評価・担当教員及び実習指導者からの情報提供も加味し、総合的に評価する。また、各科目の出席時間数が全時間数の3分の2に満たない場合、評価を受けることができない。

2) 成績評価の基準

実習成績は、単位修得の認定に基づき、100点を満点として評価し、60点以上を合格とする。

専門分野Ⅱ

分野	専門分野Ⅱ	教育内容	母性看護学		単位	4	時間	105
科目	母性看護学概論(対象の理解)	単位	1	時間	30	進度	1年次後期	
目的 母性看護の対象の特徴を理解し看護の役割について学ぶ								
方法	講義	評価方法	筆記試験・レポート				講師	
学習目標	授業内容							
母性の概念と母性看護の意義および特性を学び、母性看護の目的を理解する	1.母性看護の基盤となる概念 1)母性とは 母性の身体的、心理的、社会的特性 2)母子関係と家族発達 (1)愛着・母子相互作用と母子関係形成 (2)家族機能とその発達課題 3)セクシャリティー 4)リプロダクティブヘルス/ライツ 5)ヘルスプロモーション 6)母性看護のあり方 母性看護の理念／課題と展望 7)母性看護における倫理 (1)生命倫理と看護倫理 (2)看護における倫理的意思決定 8)母性看護における安全・事故予防							本校専任教員(2年) (病院で5年、診療所で1年の実務経験有)
母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状について理解する	2.母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 1)母性看護の歴史的変遷と現状 2)母性看護の対象を取り巻く環境 家族・地域社会							
母性看護の対象の特性を理解する	3.母性看護の対象理解 1)女性のライフサイクルに伴う形態・機能の変化 (1)性の分化と胎児期における生殖器の発育 (2)生殖器の形態・機能 2)女性・家族のライフサイクル 3)母性の発達・成熟 (1)女性性・母性性の発達 (2)母子関係と愛着							
看護実践に必要な対象者のアセスメントと看護実践の基礎を理解する	4.母性看護に必要な看護技術 1)母性看護における看護過程 2)情報収集・アセスメント技術 3)母性看護に使われる看護技術 ライフサイクル各期の事例							
ライフサイクル各期の健康と看護の必要性を理解する	5.女性のライフサイクル各期における看護 1)ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性 2)思春期の健康と看護 3)成熟期の健康と看護 4)更年期の健康と看護 5)老年期の健康と看護 6)ライフサイクル各期にまたがる健康問題と看護							
テキスト:系統看護学講座 母性看護学[1] 母性看護学概論. 医学書院 病気がみえる vol. 10 産科. メディックメディカ 参考書:国民衛生の動向								

専門分野Ⅱ

分野	専門分野Ⅱ	教育内容	母性看護学	単位	4	時間	105
科目	母性看護学方法論Ⅰ(妊娠期)	単位	1	時間	30	進度	2年次前期
目的	生殖に関わる健康問題を知り、妊娠期にある人々とその家族への看護について基礎的知識と技術を学ぶ						
方法	講義	評価方法	筆記試験	講師			
学習目標	授業内容						講師
生殖に関わる健康問題を理解する	1.母性の発揮を促す看護 1)遺伝相談 (1)遺伝相談とは (2)出生前診断 2)不妊治療 (1)不妊とその原因 (2)不妊検査・治療 (3)着床前診断 (4)胎児治療と遺伝子治療						【4/30時間】 医師 (総合病院で8年、診療所で16年の実務経験有)
正常な妊娠経過および妊婦・妊娠の異常を理解する	1.正常な妊娠経過 1)妊娠期の身体的特性(人体のしくみ…でも学ぶ) (1)妊娠の生理 (2)胎児の発育とその生理 (3)母体の生理的变化 2.妊婦・妊娠の異常 1)ハイリスク妊娠 (1)生活習慣・心理社会的因子・体格 (2)妊娠・出産歴 (3)糖尿病・妊娠糖尿病 (4)心疾患 (5)貧血 等 2)妊娠期の感染 2)妊娠疾患 3)多胎妊娠 4)妊娠持続期間中の異常 5)子宮外妊娠						【6/30時間】 医師 (総合病院で11年、診療所で11年の実務経験有)
方法	講義	評価方法	筆記試験	講師			
学習目標	授業内容						講師
妊娠が妊婦・家族に及ぼす影響を理解する	1.妊娠期における看護 1)妊娠期の心理・社会的変化 (1)妊婦の心理的特徴 (2)妊娠と家族および社会						【10/30時間】 助産師 (病院で33年の実務経験有)
妊婦と胎児、家族のアセスメントの視点を理解する	2)妊婦と胎児のアセスメント (1)妊娠経過の診断 (2)胎児の発育とその健康状態の診断 (3)妊婦健康診査 (4)妊婦と胎児の健康状態のアセスメント (5)妊婦と家族の心理・社会面のアセスメント 3)妊婦と家族の看護 (1)妊婦の保健指導の目的と方法 (2)妊婦の保健指導の実際 (3)親になるための準備教育						【10/30時間】 助産師 (病院で19年の実務経験有)
妊娠中に注意すべき状態、ハイリスク妊婦についての援助の方法を理解する	2.ハイリスク妊婦の看護 1)高年妊婦の看護 2)若年妊婦の看護 3)肥満・過剰体重増加妊婦の看護 4)勤労妊婦への援助 5)合併症を有する妊婦の看護 6)妊娠高血圧症候群妊婦の看護 7)切迫流・早産の妊婦の看護 8)多胎妊婦の看護 9)精神障害合併妊婦と家族の看護 3.看護過程の展開 妊娠高血圧症の妊婦						
テキスト:系統看護学講座 母性看護学[2] 母性看護学各論. 医学書院 病気がみえる vol.10 産科. メディックメディカ 参考書:適宜関係図書紹介 資料配布							

専門分野Ⅱ

分野	専門分野Ⅱ	教育内容	母性看護学	単位	4	時間	105
科目	母性看護学方法論Ⅱ(分娩期)	単位	1	時間	30	進度	2年次後期
目的 分娩期にある人々とその家族への看護について基礎的知識と技術を学ぶ。							
方法	講義	評価方法	筆記試験	講師			
学習目標	授業内容						【8/30時間】 医師 (総合病院で11年、 診療所で11年の実 務経験有)
分娩の経過にともなう身体的変化と産婦の反応や心理的变化について理解する	1.分娩の要素 1)分娩とは 2)分娩の3要素 3)胎児と子宮および骨盤との関係 4)分娩の機序						
分娩経過中の産婦・胎児の問題について理解する	2.分娩の異常 1)産道の異常 2)娩出力の異常 3)胎児の異常による分娩障害 4)胎児の付属物の異常 5)分娩時の損傷 6)分娩第3および分娩直後の異常 7)分娩時異常出血 8)産科処置と産科手術						
方法	講義	評価方法	筆記試験・レポート	講師			
学習目標	授業内容						【22/30時間】 本校専任教員(2 年) (病院で5年、診療 所で1年の実務経験 有)
分娩に進行に伴う身体的変化と産婦の反応や心理的变化を理解する	1.分娩の経過にともなう看護 1)分娩の進行と産婦の身体的変化 2)産痛 3)胎児に及ぼす影響 4)産婦の心理・社会的変化						
分娩の進行と産婦・胎児、家族に対するアセスメントの視点を理解する	2.産婦・胎児、家族のアセスメント 1)産婦と胎児の健康状態のアセスメント 2)産婦と家族の心理・社会的面のアセスメント 3)産婦・家族における看護上の問題点の明確化 3.産婦と家族の看護 1)看護目標と産婦のニーズ 2)安全分娩への看護 3)安楽な分娩への看護 4)出産体験が肯定的になるための看護 5)基本的ニーズに関する看護 6)家族発達を促す看護						
分娩進行に伴う産婦に対する援助の方法を理解する	4.分娩期の看護の実際 1)分娩第1期の活動期 (子宮口開大3cm～7cmまで)の看護 2)分娩第1期活動の終盤 減速期:子宮口開大7cm～8cm以上開大まで)の看護 3)分娩第2期の看護 4)分娩第3・4期の看護						
分娩経過中に注意すべき状態についての援助の方法を理解する	5.異常のある産婦の看護 1)破水が生じた産婦の看護 2)分娩遷延のリスクのある産婦の看護 3)胎児ディストレスを生じるリスクのある産婦の看護 4)急速遂娩を受ける産婦の看護 5)分娩時異常出血のある産婦の看護 6)精神障害合併妊婦と家族の看護						
テキスト:系統看護学講座 母性看護学[2] 母性看護学各論. 医学書院 病気がみえる vol. 10 産科. メディックメディカ 参考書:適宜関係図書紹介 資料配布							

専門分野Ⅱ

分野	専門分野Ⅱ	教育内容	母性看護学	単位	4	時間	105
科目	母性看護学方法論Ⅲ	単位	1	時間	15	進度	2年次後期
単元名	産褥期・新生児						
目的	産褥期にある人々と新生児および家族への看護について基本的知識と技術を学ぶ。						
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験	講師			
学習目標	授業内容						【11/15時間】 本校専任教員(2年) (病院で5年、診療所で1年の実務経験有)
産褥期の身体的変化 および産婦・家族の 心理的・社会的変 化を理解する	1.産褥経過 1)産褥期の身体的変化 2)産褥期の心理・社会的変化						
産褥経過中の産婦 の問題と注意すべ き状態についての 援助方法を理解す る	2.産婦の異常と看護 1)子宮復古不全 2)産褥期の発熱 3)産褥血栓症 4)精神障害 5)異常のある産婦の看護 (1)感染症を持っている産婦の看護 (2)乳房トラブル (3)母子分離時の産婦の看護 (4)児を亡くした産婦・家族の看護						
産婦と新生児およ び家族の看護に必 要なアセスメント の視点を理解する	3.産婦のアセスメント 1)産褥経過の診断 2)産褥の健康状態のアセスメント 4.産婦と家族の看護 1)身体機能回復および進行性変化への看護 2)児との関係確立への看護 3)育児技術にかかわる看護 4)家族関係再構築への看護 5.施設退院後の看護 1)育児不安と育児支援 2)職場復帰 6.精神障害合併症産婦と家族の看護						
新生児の看護に必 要なアセスメント の視点を理解する	7.新生児のアセスメント 1)新生児の診断 2)新生児の健康状態のアセスメント 8.新生児の看護 1)出生直後の看護 2)出生後から退院時までの看護						
新生児期の注意す べき状態について の援助の方法を理 解する	9.新生児の異常の看護 1)低出生体重児の看護 2)高ビリルビン血症児の看護 10.看護過程の展開						
方法	講義	評価方法	筆記試験	講師			
学習目標	授業内容						【4/15時間】 医師 (総合病院で15年、 診療所で20年の実 務経験有)
胎児から新生児へ の生理的変化、身 体的特徴を理解す る	1.新生児の生理 1)新生児とは 2)新生児の形態・機能						
新生児の問題につ いて理解する	2.新生児の異常 1)新生児仮死 2)分娩外傷 3)低出生体重児 4)高ビリルビン血症						
テキスト:系統看護学講座 母性看護学[2] 母性看護学各論. 医学書院 病気がみえる vol. 10 産科. メディックメディカ 参考書: 新生児学入門. 医学書院 みるみる母性看護. 医学評論社							

専門分野Ⅱ

【 母性看護学実習 】 2単位 90時間 3年次

1. 実習の目的

妊娠・分娩・産褥期にある対象を理解し、母子および家族に対して援助する基本的能力を養う

2. 実習目標

- 1) 妊産褥婦および家族に及ぼす影響を理解する
- 2) 母子および家族の健康を促進させる日常生活の援助ができる
- 3) 新生児に必要な援助ができる
- 4) 母子および家族が新しい役割に適応するための援助を考える
- 5) 保健・医療・福祉のチームにおける看護師の役割を理解する
- 6) 自己の母性観・父性観を深めることができる
- 7) 専門職業人としての基本的態度を養う

3. 実習方法

	内 容	記録用紙	提出日
褥室 新生児	・初日にオリエンテーションを受ける ・産褥0日目以降の褥婦を受け持つ ・生後0日目以降の新生児も共に受け持つ ・褥婦の日々の観察は指導者と共に実施する ・新生児の日々の観察は沐浴時に実施する ・褥婦の各種保健指導は同行・見学する ① 授乳指導 ② 沐浴指導 ③ 退院指導 ・新生児の検査を見学する ※受け持ちがない場合、教員・指導者に相談する	No.1 実習課題用紙	実習初日
		No.2 行動計画書	毎日終了時
		No.3 受け持ちデータベース①	受け持ち決定日
		No.3 受け持ちデータベース②	
		No.4 受け持ち褥婦アセスメント	受け持ち 2日目
		No.5 受け持ち新生児アセスメント	3日目 4日目
L D R 分娩室	・初日にオリエンテーションを受ける ・承諾をいただいた産婦さんの分娩期に入る ・指導者と共に必要な援助を実施する ・褥室へ帰室するまでの一連を見学実習する	No.1 実習課題用紙	実習初日
		No.2 行動計画書	毎日終了時
		No.6-①②分娩見学実習	分娩見学後
外 来	・妊婦健診 ・内診室の看護 ・産褥の1ヶ月健診 ・新生児の1ヶ月健診 ・母乳外来	No.2 行動計画書	毎日終了時
		No.7 外来見学実習 No.8 健診・集団指導見学実習	健診見学後
教 室	・両親教室 ・マタニティヨガ教室 ・各サークル	No.2 行動計画書	毎日終了時
		No.8 健診・集団指導見学実習	健診見学後
評 価	・最終評価のみを実施	評価表	評価日
記 録 用 紙	共通記録No.1 実習課題用紙 母性記録No.3 受け持ちデータベース① 母性記録No.7 外来見学実習 共通記録No.2 行動計画書 母性記録No.3 受け持ちデータベース② 母性記録No.8 健診・集団指導見学 共通記録No.6 看護計画 母性記録No.4 受け持ち褥婦アセスメント 共通記録No.8 沐浴手順 母性記録No.5 受け持ち新生児アセスメント 共通記録No.9 実習振り返り用紙 母性記録No.6 分娩見学実習 母性看護学実習における技術チェック表		

4. 提出について

- 1) 日々の提出記録は上記のとおりとする
- 2) それぞれのセクション別（担当の指導者あて）に指導者に提出する
- 3) 事前学習、事後学習などのレポートは随時提出し、指導者に指導を受ける
- 4) 評価日当日の朝、実習記録一式をNo.順に綴じファイルに入れその日の指導者に提出する
- 6) 最終提出は教員とし、本実習が終了した次週の登校日を〆切とする

専門分野Ⅱ

分野	専門分野Ⅱ		教育内容		精神看護学		単位	4	時間	105	
科目	精神看護学概論(対象の理解)		単位	1	時間	30	進度	1年次後期			
目的	看護における精神看護の意義・目的・対象・役割機能を理解し、精神の危機的状況や精神を障がいされた個人とその家族への援助を考えるのに必要な基礎的知識を学ぶ										
方法	講義		評価方法		筆記試験・レポート						
学習目標			授業内容							講師 看護師 (病院で10年の実務経験有)	
精神看護の目的と意義を理解する			1.精神看護の目的と意義 1)「心のケア」と現代社会 2)精神障害とは 3)精神看護の役割								
精神看護の対象を理解する			2.精神看護の対象とその理解 1)精神の健康とは 精神健康の基準 2)精神障害のとらえ方 3.人間の心のはたらき 1)人格と気質 2)知能 3)意識と認知機能 4)感情 5)学習と行動 6)心の理論 4.心のしくみと人格の発達 精神分析と理論 5.心の危機とストレス 1)危機理論とストレス理論 2)コーピング 6.人間関係と心のはたらき 1)家族と健康 2)家族内のコミュニケーションのゆがみ 3)家族のなかの役割関係 4)集団のなかの自己 5)グループの力 7.精神を病むことと生きること 8.さまざまな精神症状の特徴 1)統合失調症 2)気分(感情)障害								
精神看護の変遷を学ぶことを通して精神障害者のおかれている社会的背景、人権について考える			9.社会のなかの精神障害 1)精神障害と治療の歴史 2)日本における精神医学・精神医療の歴史 3)諸外国の歴史 4)精神保健活動の動向 5)精神保健と法制度								
テキスト:系統看護講座 精神看護学[1]精神看護の基本概念. 医学書院 参考書:適宜関係図書紹介 資料配布											

専門分野Ⅱ

分野	専門分野Ⅱ	教育内容	精神看護学	単位	4	時間	105
科目	精神看護学方法論Ⅰ(精神看護)	単位	1	時間	30	進度	2年次前期
目的	心の健康の保持増進、疾病予防を図るための保健・医療・福祉対策を学び、対象を理解する。心のバランスを崩している人を対象とし、心の健康の維持増進へ働きかけその人らしく生きていけるよう援助するための方法を学ぶ						
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験・レポート			講師	
学習目標	授業内容						大学准教授 看護師 精神看護学修士 (他看護専門学校で専任教員8年、総合病院で2年、病院で6年の実務経験有)
生活の場における心の健康と危機的状況およびそれらに影響を与える要因を理解し、健全な精神の発達への援助を思考するのに必要な基礎的知識を学ぶ	1.対人関係成立への援助 1)自分について知ること 2)援助する相手について知ること 3)人としての尊厳を尊重する 4)互いの境界をまもる 2.心の理解に基づく援助 1)話をする、聞くこと 2)気持ちに焦点をあてる 3)素直になること 3.対象との人間関係をアセスメントする 1)アセスメントの必要性 2)プロセスレコード 3)アセスメントの必要性 4.対象と看護者の関係でおこること 1)共感する 2)拒絶される 3)攻撃の対象となる 4)転移・逆転移 5)操作される 6)訴えにふりまわされる 5.精神科病棟のチームのなかでおこること 1)病棟のダイナミクス 2)チームのスプリッティング 3)カンファレンスでおこること 6.身体疾患と精神看護 1)がんと精神症状 2)手術後にみられる精神症状 3)身体の損傷と精神症状 7.看護カウンセリング 対象への対応をロールプレイを用いて演習する 8.リエゾン精神看護とは 1)リエゾン精神看護の歴史 2)リエゾナーズの活動 9.コミュニティにおける精神保健・精神看護 1)学校における精神保健・精神看護 2)職場における精神保健・精神看護 9.地域における精神看護 1)地域で生活するための原則 2)生活を支える制度 3)地域での看護の実際 (1)青年期の患者の地域生活を支える (2)若い対象の退院を支援する (3)複合的な問題をかかえた長期入院対象の退院を支援 (4)就労を支援する (5)家族を支援する 10.看護師のメンタルヘルス 看護における感情労働						
テキスト:系統看護講座 精神看護学[1]精神看護の基本概念. 医学書院 系統看護講座 精神看護学[2]精神看護の展開. 医学書院 参考書:適宜関係図書紹介 資料配布							

専門分野Ⅱ

分野	専門分野Ⅱ		教育内容	精神看護学		単位	4	時間	105
科目	精神看護学方法論Ⅱ(精神障害)		単位	1	時間	15	進度	2年次前期	
目的	精神障害についての基本的な知識を学ぶ								
方法	講義		評価方法	筆記試験・レポート			講師		
学習目標		授業内容							
精神症状に関連する主要な疾患の概念を理解する		1.精神疾患の理解 1)主要な精神疾患の概念、症状、治療、経過 (1)統合失調症 (2)気分障害 (3)不安障害 (4)身体表現性障害 (5)摂食障害 (6)物質関連障害 (7)パーソナリティ障害 (8)転換性障害						【8/15時間】 医師 (総合病院で18年、 病院で14年の実務経験有)	
精神科における治療を理解する		2.精神科における治療 1)薬物療法 (1)向精神薬とは (2)抗精神薬 (3)気分安定薬 (4)抗不安薬 (5)睡眠薬 (6)抗てんかん薬 (7)抗認知症薬 (8)抗酒薬 (9)コンプライアンスとアドヒアランス 2)電気けいれん療法 3)精神療法 (1)個人療法 (2)集団精神療法 (3)家族療法 4)環境療法・社会療法 (1)作業療法 (2)精神科リハビリテーション						【7/15時間】 医師 医学博士 (総合病院で19年の実務経験有)	
テキスト:系統看護講座 精神看護学[1]精神看護の基本概念, 医学書院 系統看護講座 精神看護学[2]精神看護の展開, 医学書院 参考書:適宜関係図書紹介 資料配布									

専門分野Ⅱ

分野	専門分野Ⅱ	教育内容	精神看護学	単位	4	時間	105
科目	精神看護学方法論Ⅲ (精神科看護)	単位	1	時間	30	進度	2年次前期
目的	精神機能に障がいのある人を対象とし、症状による生活障害を学び、その人が置かれている社会状況の中でその人らしく生きていけるよう援助するための方法を学ぶ						
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験・レポート				
学習目標	授業内容						講師
精神機能に障がいのある個人および家族への援助に必要な具体的知識・技術を学ぶ	1.精神科における看護師の役割 1)入院治療の意味を理解する (1)対象の入院体験と入院することによるデメリット (2)入院の仕方 (3)入院治療の目的 (4)対象のアセスメント 2)治療的環境をつくる 3)安全をまもる (1)安全な環境をつくる (2)リスクマネジメント 4)緊急事態への対処 (1)自殺のリスクアセスメントと援助 (2)暴力のアセスメントと看護師の対処 (3)無断離院に注意が必要な対象とおきたときの対処 (4)緊急事態とスタッフのサポート 5)回復を助ける (1)治癒と回復 (2)精神科におけるリハビリテーション (3)回復を支えるさまざまな方法 (4)回復のビジョン (5)回復を支える社会の構築						看護師 (病院で12年の実務経験有)
精神症状をもつ患者の生活を整える看護を学ぶ	2.身体症状の援助 1)身体にあらわれる心の痛み 2)精神科における身体への援助 3)精神科の治療と身体への援助 (1)抗精神病薬の有害反応 (2)長期間投与時にみられる有害反応 (3)生命の危機を伴う有害反応 (4)服薬の援助 4)電気けいれん療法の看護 5)精神療法としての身体への援助 3.日常から気をつけておきたい身体合併症 1)メタボリックシンドローム 2)やせ 3)糖尿病 4)肺炎 5)骨折 6)窒息 7)悪性新生物 4.睡眠の援助 1)健康と睡眠 2)睡眠のパターンとリズム 3)睡眠障害と援助 5.心的外傷をもつ対象への身体からはじまる援助 6.精神科における身体への援助の実際を事例を用いて展開する 1)精神科におけるフィジカルアセスメント 2)対象の回復段階に応じた身体への援助の展開方法 3)日常生活における身体援助						

テキスト: 系統看護講座 精神看護学[1]精神看護の基本概念, 医学書院
 系統看護講座 精神看護学[2]精神看護の展開, 医学書院
 参考書: 適宜関係図書紹介 資料配布

専門分野Ⅱ

【 精神看護学実習 】 2単位 90時間 3年次

1. 実習の目的

精神に障がいのある人および家族を理解し、精神の健康回復に対する看護の実践に必要な能力を養う

2. 実習目標

- 1) 精神に障がいのある対象をありのままに観察する
- 2) 対象に必要な日常生活の援助ができる
- 3) 精神病棟における特殊な環境と治療方法を理解する
- 4) 対象との関わりにおいて生じる相互作用のプロセスを理解できる
- 5) 社会復帰に向けて対象に必要な援助を考える
- 6) 集団におけるチームワークを考える

3. 実習方法

日 程	内 容	記録用紙
登校日	学内オリエンテーション 事前学習、実習の課題提出	事前学習・実習目標提出(学内)
初日	・病棟のオリエンテーションを受ける・受け持ち対象の紹介、情報収集開始 *援助の実施は受け持ち対象以外でも対象の同意を得て、状態に応じた援助を計画し実施する	情報収集・アセスメント・関連図に記入
4日目	・情報をもとに、対象の情報をアセスメントし、対象の全体像を関連図に記載する ・対象の健康問題を抽出し、病棟の看護計画と照らし合わせながら優先順位を決定する ・対象との関わりで気になった場面をプロセスレコードにまとめ振り返る。	看護上の問題・援助計画を立て実施したことを記入 プロセスレコード記入
登校日	実習記録指導	
5日目	・問題解決のための援助を計画し、実施可能な援助を確認する ・以後、行程を繰り返しながら援助を行なう ・看護師と共に援助を行い実施したことを評価し、次の計画にむけ必要時修正する	記録は日々追加していく ケースカンファレンス記入
7日目	・学生は、受け持ち対象のケースカンファレンスを一回は行う 事前に、ケースカンファレンス用紙に記入し情報提供する *受け持ち対象変更時は新たに行程を踏む ・対象との関わりで気になった場面をプロセスレコードにまとめ振り返る。 ※6日目頃に中間評価	プロセスレコード記入 評価表提出
登校日	実習記録指導	
8日目	・対象との関わりで気になった場面をプロセスレコードにまとめ振り返る。 反省会（実習目標の達成度、受けもち対象を通しての学び、自己目標の達成度）	プロセスレコード記入
最終日	最終評価	評価表提出

※清水病院の実習方法

デイケア見学、共同作業所見学、訪問看護説明

- 1 週目レクリエーション計画、2 週目レクリエーション準備、
- 3 週目レクリエーション実施

4. 実習中の注意事項

- 1) 対象のプライバシーを保持すること
- 2) 自己の個人衛生と精神保健に留意すること
- 3) 実習グループとして協力すること

5. 提出について

- 1) 指定された実習記録一式をファイルに入れて提出
- 2) 提出は実習担当教員へ、次週の登校日に提出する

6. 単位修得の認定

1) 成績の評価

実習評価は、実習目標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、実習課題の提出内容、出席状況について、自己評価・担当教員及び実習指導者からの情報提供も加味し、総合的に評価する。また、各科目の出席時間数が全時間数の3分の2に満たない場合、評価を受けることができない。

2) 成績評価の基準

実習成績は、単位修得の認定に基づき、100点を満点として評価し、60点以上を合格とする。